
短歌ごっこ'10.葉月

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌「つこ・10・葉月

【著者名】

逸見

【あらすじ】

日常を詠んできます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切つてしまつのは、なんかおこがましい

そんな訳で「短歌」です

店を出て
途端の熱気で
ゆがむ顔

来る人もまた
しかめつ面で

汗ばんだ
肌に熱気を
まといつつ
夕立望む
夏の夕暮れ

ありふれた
たつた二行の
文章を
白い頭で
繰り返し読む

少しだけ
星の見えてる
空の下
星に願う
年にあらねど

申し訳

程度の袖で
闊歩する

うだる暑さを
言い訳にして

涼風の

字面涼しげ
「すずかぜ」と
口にしてみる
響きも涼し

晴れながら
降る雨すぐに
止んだ後

曇る夏空

百面相

その朝も
入道雲は
出ていたか
蝉は鳴いたか
今日のようだ

日常を

断ち切る一瞬

思う時

是か否だけでは
ないもの感ず

健やかに

育てと聞きし

子の寝息

叶いて再び

聞く盆休み

鳴き通し

力尽きて

しまったか

木の下ポツンと

蝉の亡骸

氣が付けば

積み重ねてる

知らぬ間に

なんの自覚も

伴わぬまま

ありふれた

今日が変わらず

過ぎて行き

今年も一つ
年を重ねる

ありがとう

一日のうち

何回も

字にして感ず

手にある幸せ

電源を

切る勇気さえ

持てなくて

つい垣間見る

見なくていい物

体力を

奪う暑さに

ノックダウン

ええ、それはもう

コテンパンに

シャボン玉

満開の桜

夏の蝉

打ち上げ花火

そんな夢さ

梅雨空を
見飽きた後は
青空と
暑さに飽きる
我が儘な夏

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5242n/>

短歌ごっこ'10.葉月

2010年10月31日13時28分発行